

巻頭言

神奈川県小児保健協会
会長 後藤 彰子



～新しい神奈川県小児保健協会をめざして～

今年度（22年度）は、理事会並びにあり方検討会（21年度）の議論を踏まえ、昨年に続き、発達障害の問題に焦点を絞り活動を行った。

指導者講習会では、榊原洋一先生の講演は昨年に続いて好評であった。

地域での持ち回り講習会は藤沢市の分担であり、対象は従来的一般市民ではなく、医療・保健に携わる保育士、保健師、看護師、医師などとした。講師は臨床心理士上原芳枝先生で、あらかじめ、参加者からの発達障害児の症例の提示があり、講師からきめ細かい指導を受け、具体的で活発な場が提供できた。

発達障害児個々に対して、家族の理解と協力関係のうえ、オーダーメイドの対応が必要で、臨床心理士、作業療法士の専門性が必然と思われた。

なお、今年度の特別事業として、9月に、発達障害、軽度発達障害に関して、神奈川県小児科医会の会員約3,00名へ調査票を、会長横田俊一郎先生と連名で送付した。80通の回答で、やや回答率は低かったが、自由記載には活発なご意見を頂いた。発達障害への早期介入（3歳）の必要性、4,5歳健診の導入はほぼ全員が要望するところであった。診断や告知、対応、治療については、認知度や制度の不備などの指摘とともに、意見の相違が見られた。

また、保育園での発達障害児の取り扱いについて、保育士への教育の必要性も強調された。保育士と園医、園医とかかりつけ医との連携なども十分とはいえず、課題も浮き彫りにされた。

この調査を、行政への提言を含めてどのように来年度以降に生かしていくか今後の検討課題である。発達障害に関しては、来年度まで3年間の課題として取り組む予定である。

財政補強については、事務費の削減、指導者講習会で聴講者から500円の資料代徴収、本部からの援助、小児保健だよりへの広告掲載など小額ではあるが努力が実ってきている。

あり方検討会は今後年1回程度開催し、当協会の活動の検証に当たる予定である。

TERUMO®

人にやさしい医療へ

テルモは、ユニークな輝く技術で
人にやさしい医療を実現し、
医療を受ける人・支える人、双方の信頼に応えます。

